





京都市立芸術大学創立130周年記念事業に協賛して開催される本展では、生命、医療、環境、宇宙における芸術的アプローチなど、現代の先鋭的なテーマに挑戦する国内外の12のプロジェクトを紹介し、展覧会を通じて美術家や科学者、アーティストなどが分野横断的な交流を重ねることで、宇宙滞在、発達障害、遺伝子組み換え、認知症、庭園、脳科学など、個別的一見無関係に見えるこれらのテーマを、相互交流と対話が可能となる新しい関係として再配列することを目指します。展覧会を通して生まれる新しい関係と視点は、私たちの馴染んでいる経験や社会的制度を捉え直すものになるだけではなく、「ヒト、時間、空間」など、「生存」に関わる基本的概念の再構築を促す大きな可能性を含むものになります。本展では、鑑賞者が制作のプロセスに触れながら生きた知を収集/生産するためのワークショップや、生命・環境・宇宙・医療と芸術の新しい関係を探る国際シンポジウムが開催されます。また、認知症、自閉症の人々を対象とした作品経験の機会を設定し、芸術・鑑賞・教育と医療の意味を問う対話の場となることも計画しています。そして明治期に於ける京都近代化のシンボルであった琵琶湖疎水を今日の視点から取り上げ、各々のプロジェクトをメタレベルで関係づけるフィールドワークなども行われます。……【生存のエシックス】プロジェクトチーム)



【関連イベント】  
京都市立芸術大学創立130周年記念  
国際シンポジウム「Creative Engagement/生存のエシックス」  
会場：京都国立近代美術館1階講堂  
主催：京都市立芸術大学、京都国立近代美術館  
※聴講無料、先着100名(当日9:30から受付にて整理券を配布します)、逐次通訳付

●Part 1: 生命・環境・芸術/7月10日(土) 10:30-16:30  
「Commons:共有」と「Conflict:対立」「Mediation:媒介」と「Meditation:瞑想」をキーワードに複数の共同体が持続してゆく為の基盤としての芸術の可能性を探ります。  
★パネリスト=森本幸裕(京都大学大学院地球環境学専攻教授)、デヴィッド・ダン(環境音楽家、アメリカ合衆国)、「生存のエシックス」プロジェクトチーム、スサーナ・ソアーズ(美術家、イギリス)、スティーヴン・カーツ(クリティカル・アート・アンサンブル、メディア・アクティビズム、アメリカ合衆国)  
★進行=加須屋明子、高橋悟(以上、京都市立芸術大学)

●Part 2: 宇宙・医療・芸術/7月31日(土) 10:00-16:30  
「Evidence-based:科学的証明」と「Experience-based:経験の創出」をキーワードに、近代以後異なった方向に大きく分岐した科学と芸術の新たな形での相互作用について探り、長期宇宙滞在、発達障害、脳科学、哲学などを新たな視点から結びつける芸術モデルを探ります。  
★パネリスト=テンブル・グランディン(動物行動学、自閉症、コロラド州立大学教授)、「生存のエシックス」プロジェクトチーム、宇宙航空研究開発機構(JAXA)所属宇宙飛行士(予定)、岩城見一(哲学、京都大学名誉教授)、ミロスワフ・パウカ(美術家、ポーランド)、十一元三(認知神経科学・児童精神医学、京都大学大学院医学研究科教授)  
★進行=高橋悟、井上明彦(以上、京都市立芸術大学)

●講演会  
7月30日(金) 18:00-  
藤森照信(建築史家・建築家)  
「土と建築」(仮題)  
8月8日(日) 14:00-  
中村哲(医師、ペシャワール会)

会場：京都国立近代美術館1階ロビー  
※聴講無料、先着200名(開始時刻の1時間前から受付にて整理券を配布します)

●その他、アーティスト・トークやデヴィッド・ダンによるマイク制作+フィールドワークのワークショップなどのイベントを多数予定しています。詳細は当館ホームページに随時掲載します。

観覧料  
一般：850(700/600)円  
大学生：450(350/250)円  
\*( )内は20名以上の団体料金  
※高校生以下、心身に障害のある方と添乗者1名は無料(入館の際に証明できるものをご提示ください)  
※本料金でコレクション展もご覧いただけます。  
※前売券の主な取り扱い：チケットぴあ(Pコード764-231)、ローソンチケット(Lコード53178)、ほか主要プレイガイド、コンビニエンスストアなど

●展覧会のお問い合わせ=京都国立近代美術館：〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町 電話：075-761-4111  
●テレホンサービス(展覧会のご案内)=075-761-9900

【交通案内】  
●JR-近鉄京都駅(丸の内線)から市バス5番 若倉行「京都金館美術館前」下車すぐ ●JR-近鉄京都駅(丸の内線)から市バス100番(急行)銀閣寺行「京都金館美術館前」下車すぐ ●阪急丸の内線-河原町駅、京阪三条線から市バス5番 若倉行「京都金館美術館前」下車すぐ ●阪急丸の内線-河原町駅、京阪三条線から市バス46番 平安神宮行「京都金館美術館前」下車すぐ ●市バス他系統「東山二条」または「京都金館美術館前」下車徒歩約5分 ●地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分

出町筋	神宮丸太町駅	平安神宮	
冷泉通	丸太町駅	出口	同公園駐車場
二条通	細見美術館	入口	
御池通	みやこめっせ		
三条京阪線	京都国立近代美術館	●	●京都美術館
三条通	三條駅	地下鉄東西線	東山駅
至蓮華寺之目	東大路通	神宮道	至浜大津・六地蔵

●お車でのお越しの場合、岡崎公園駐車場(地下)をご利用の有料入館者は、駐車場の割引(1台1名)を受けられますので駐車券をお持ちの上お越しください。

【プロジェクト】

●水のゆくえ：連鎖する水声……担当：中ハシクシゲ  
琵琶湖疎水をもたらす水は京都の濁水を解消しただけではなく、伝染病を防ぎ、電気を生み出し、天皇が去った京都に輝きを与えました。美術館の横を流れる疎水を眺めながら、会期中にボランティア参加者により約2万5千枚の写真を繋ぎ合わせ「水」と関係の深い巨大なオブジェを造り上げるプロジェクトです。

●水のゆくえ：アウアカフェ@KCUA Café……担当：井上明彦  
土は水によってかたさをなし、人は水によってのちをつむぐ。琵琶湖疎水は京都近代化の礎であり、今も市民の心身を潤している。他方、京都の西端では高速道路建設のために多くの民家や竹林が破壊されている。そこから土約12ト、竹数十本を選び、疎水の水を使って、美術館の前庭に水を飲むための「アウアカフェ」をワーク・イン・プログレスとして構築する。

●バイオミュージック/水・音・生命・音……高井 平安神宮の庭、湖西の森のフィールドワークに基づくプロジェクト……デヴィッド・ダン(David Dunn)

120年前の琵琶湖の生態形を保つ平安神宮苑や湖西に広がる立ち枯れの森とキクイムシなどの自然環境を通して、生態システムとそれへのコミュニケーションについて探求するプロジェクト。手製のマイク作成ワークショップの後にフィールドワークを行う計画もある。

●「蜂」プロジェクト……スサーナ・ソアーズ(Susana Soares)  
「蜂」プロジェクトでは、蜂の嗅覚を人間の健康診断器具として使用する。蜂は高度に発達した正確な嗅覚を持ち、肺がんや皮膚がん、糖尿病などの病気の臭いを嗅ぎ分けるように訓練することができる(とスサーナ・ソアーズは語る)。従来の医療機器の代換として蜂を使用するこのプロジェクトは、人間と動物の別な形での共生の提案ともなる。

●遺伝子組み換え劇場……クリティカル・アート・アンサンブル(Critical Art Ensemble)  
クリティカル・アート・アンサンブルは、「論争的生物学」と呼ばれるオルタナティブな抵抗の形式を私たちに提供してくれて、7段階の計画。1: 遺伝子組み換え生産と生産物を脱神話化すること。2: 人々の恐怖を取り去ること。3: 批判的思考を進めること。4: エデンのユートピアのレトリックを批判し攻撃すること。5: 科学の殿堂の扉を開くこと。6: 専門化の文化的境界を溶解すること。7: アマチュア主義への敬意の念を作り出すこと。

●デモクラシー……アルトゥール・ジエフスキ(Artur Zmijewski)  
アルトゥール・ジエフスキはこれまで、少数者に注目し、私たちの固定観念を覆すような写真や映像作品を発表してきた。《デモクラシー》では、各地で人々が公共空間において集会を開き、発言する様子が記録される。全く異なった主張や背景を持つ人々の姿を通じて、民主主義が問い直される。

●光・音・脳……担当：森公一  
本研究は、光による色彩や音の体験がもたらす情動反応について、脳科学とメディアアートの方法を用いたアプローチによって、実証実験的に探ろうとするプロジェクトである。光の充満する特殊な環境に身を置いた被験者に対し、NIRS(近赤外線脳血流測定装置)による前頭葉の血流測定を行う。測定結果は瞬時に解析され、血流の変化に応じて色や音に変化する。バイオフィードバック・システムとしての芸術体験。

●関係概念としての知覚的自己定位の研究

担当：中原浩大  
テンブル・グランディン(Temple Grandin)考案の「ハグ・マシン」。「隣接する世界(adjacent world)」や「セキュリティ・ブランケット」の概念(向井千秋宇宙飛行士)、微小重力環境下のライナスの毛布の研究(AAS:宇宙への芸術的アプローチ)などを検証考察し、地上環境におけるセキュリティ・ブランケットの機能を有する器具の試作を行う。

●盲目のクライマー/ライナスの散歩

担当：石原友明、中原浩大  
【盲目のクライマー】  
手探りで切り立った山を登る。手がかりから次の手がかりへ、からだを重力に拮抗させながら一本の線を描く。夜と昼、上昇と下降、凸と凹を繰り返す。盲目の身体がかたちを形成してゆくような場所の生成。  
【ライナスの散歩】

関係概念としての知覚的自己定位の研究における、ライナスの毛布の機能を有する他形態の器具のひとつとして、よじ登る、くぐり抜ける、寝転がるなど様々な身体的行為を誘発しながら試行錯誤的に展開させていく装置を試作する。

●Trans-Acting: 二重軸回転ステージ/浮遊散策  
宇宙滞在・認知症・庭園・発達障害の研究に基づくトポロジカルな時空と記憶形成の探求……担当：高橋悟、松井紫朗  
二度傾斜する直径8m円形ステージの二重軸回転により、重力方向と身体触覚が混乱され、絶えず予測を裏切る微妙な「NO(W)HERE」感覚：イマココニアルと同時にドコデモナイが生み出される。これら諸感覚の統合、自己の妄容、空間に於ける自己定位、身体図式など経験/認識の構造と屋内活動の妄容について、光トポロジーを使用し計測する。また、

宇宙滞在・認知症・庭・発達障害に関するワークショップを通して知覚システムを更新し、それらの「関係に動揺」を与えるプロセスを創造に於ける原理として捉え、その可能性を追求する。

●宇宙庭……担当：松井紫朗、森本幸裕、井上明彦

古来より人類は、文化的背景、自然条件が違っても、それぞれに固有の庭をつくり続けてきた。重力があることを自明のものとした自然観に沿いつくられてきたこれらの庭に対し、微小重力空間での庭はどのような形態を成すか? 国際宇宙ステーションという宇宙環境で植物を育て、人間と庭との生きた関係をかたちづくることにより、宇宙という新たな視点から、地上の自然観について、庭という文化的営為について、捉えなおすプロジェクト。

●未来の家政学・Tea House of Robots

……ミシガン大学(University of Michigan): ジョン・マーシャル(John Marshall)、カール・ダウブマン(Karl Daubmann)、セザン・チャールズ(Cézanne Charles)  
トースター、ミキサー、ラジオなどアメリカ1950年代のキッチン用品がロボットに変身。壁は、鑑賞者の表情を認識し、スマイル度数に基づき振る舞いを変化させる。これは、我々、日本の理想的空間の対極にあるアクロパティックで喜劇的な茶室である。

●詳細は当館ホームページおよび展覧会専用サイトをご覧ください  
<http://www.momak.go.jp>  
<http://www.engagementkyoto.jp>



Trouble in Paradise………生存のエシックス

© the artists